

# I はじめに

## 1. 戦略策定の背景と趣旨

本県には、花フェスタ記念公園（可児市）、養老公園（養老町）、世界淡水魚園（各務原市）、平成記念公園（美濃加茂市）の4つの集客力のある県営都市公園があります。過去に相当なコストとエネルギーを投入して整備されたこれら4公園には、県内観光入込客数の約1割に当たる年間650万人を超える人々が訪れており、高いポテンシャルを有しています。

昨年春には、花フェスタ記念公園を舞台に「花フェスタ2015ぎふ」を開催し、当初目標の25万人を大幅に上回る約41万人の集客を達成しました。「花」と「食」をテーマに、いまここでしか体験できないような企画を充実させた成果であり、あらためて当公園が持つポテンシャルの高さが証明されたところです。

その一方で、近年における来園者数の動向をみると、県内観光入込客数が着実に増加しているのとは対照的に、世界淡水魚園を除く3公園では伸び悩み傾向となっています。公園へのニーズや取り巻く環境が変化している中であって、これらの公園が有するポテンシャルが存分に発揮されているとは言い難い状況にもあります。

現在、本県では「世界遺産」をはじめ多様な地域資源に磨きをかけ、発信し、人を呼び込んでいく取組みを展開しています。県営都市公園についても、こうした取組みと軌を一にし、そのポテンシャルを最大限に発揮するとともに、多様な地域資源をつなぐ拠点として「清流の国ぎふ」に相応しいブランドの確立に貢献していくことが求められています。

以上のような背景のもと、県営都市公園の活性化に向け、公園が担うべきテーマ、指針とすべき取組方針と展開を明らかにするとともに、ハード・ソフトの両面にわたる具体的な取組内容について、基本戦略を策定するものです。

（注）本県の県営都市公園は7公園ありますが、本戦略では、このうち年間30万人以上の集客力を有し、かつ県外からの来園者が過半を占めている上記の4公園を対象とします。

## 2. 戦略の対象期間

本戦略の対象期間は、東海環状自動車道西回り区間の整備及び東京オリンピック・パラリンピック開催などの大きな転換期を見据え、平成28（2016）年度から平成32（2020）年度までの5年間とします。

## 3. 戦略策定の経過

本戦略の策定にあたっては、学識経験者、花き振興、子育て支援、観光振興、報道、産業、公園所在首長、行政など幅広い分野の有識者からなる「岐阜県都市公園活性化懇談会」において5回にわたりご議論いただいたほか、各公園の運営協働会議等においても関係者のご意見を伺い、こうした意見を反映させつつ、とりまとめました。